つるぎむかしがたり

悲恋 駒止めの桜

俗にいう源平合戦の後、平家の落ち武者を追ってきた源氏の武士と互いに心惹かれるようになった村娘が、阿弥陀堂の境内にある満開の桜の下で駒(馬)を止めて別れを惜しんだところからこの名前がつきました。

また、この桜は別れを惜しんだ馬上の武士が立ち止まり何度も何度もふりかえったことから「見返りの桜」ともいわれています。

この桜は、根本周り、9.20メートル、高さ約15メートルのすばらしい山桜でした。

昭和19年に一宇村(当時)の天然記念物に指定されながら、翌年の台風で倒れてしまい、残念ながら、もうその姿を見ることができません。

錦谷小学校の東方約100メートルあたりには、村娘が、愛しい武士のあとを慕って、幾日も立ち尽くしたと伝えられる場所があり、「お八重の桜」と呼ばれる老樹がありました。しかし、これも50年ほど前に倒れてしまい、今では物語が語りつがれるのみとなっています。

撮影時期:不明
撮影場所:一宇久藪
写真提供:一宇葛籠様